

大和高田市立病院の整形外科について

大和高田市立病院整形外科は専門医 3 名と後期研修医 1 名で運営しています。専門医 3 名はそれぞれ専門領域があり、膝（関節外科）、肩（関節外科）と腫瘍を専門としています。そのため手術も膝、肩の症例が多くなっています。

代表的な膝疾患は半月板損傷、膝関節症、靭帯損傷などです。小さな傷で治す関節鏡による半月板縫合術や靭帯再建術が増えています。また自分の骨を生かして、関節の動きを制限することなく痛みを軽減する骨切り術（膝の変形に対して骨切りなどを行って変形を矯正する手術）などが治療法になります。肩の代表的な疾患は腱板損傷です。



腫瘍に関して、今後増えると思われるのは、高齢者のがん患者増加に伴う転移性腫瘍です。骨シンチやMR I、CTなどを行って、その後、生検などで診断することになります。これまでは診断がつくと、他の施設で治療ということもありましたが、昨年から当院で放射線治療も可能になりました。またそれ以外で重点を置いているのは、高齢者の骨折治療です。高齢者に多い股関節、手関節、肩関節周囲の骨折の手術を積極的に行っています。高齢者の人では、もともとの疾患によって、バイアスピリンなどを服用している場合は出血しやすくなるため、薬の影響がなくなるまで待つてもらわないといけない場合があります。また、術後のリハビリについては、当院の理学療法士が増えつつあるので、一人の患者に掛けられる時間も増加傾向にはあります。ただ、回復期病棟などで行われる時間と比較すると、少なくなっています。

希望があれば、回復期リハビリを行っている病院に紹介します。術後、ある期間を過ぎると、転院ができなくなるので、早めに相談してください。

今後とも、整形外科診療をより充実するように努めていきますので、よろしく願います。

副院長 森下 亨